

原遺跡発掘調査

☆第11次調査その1☆



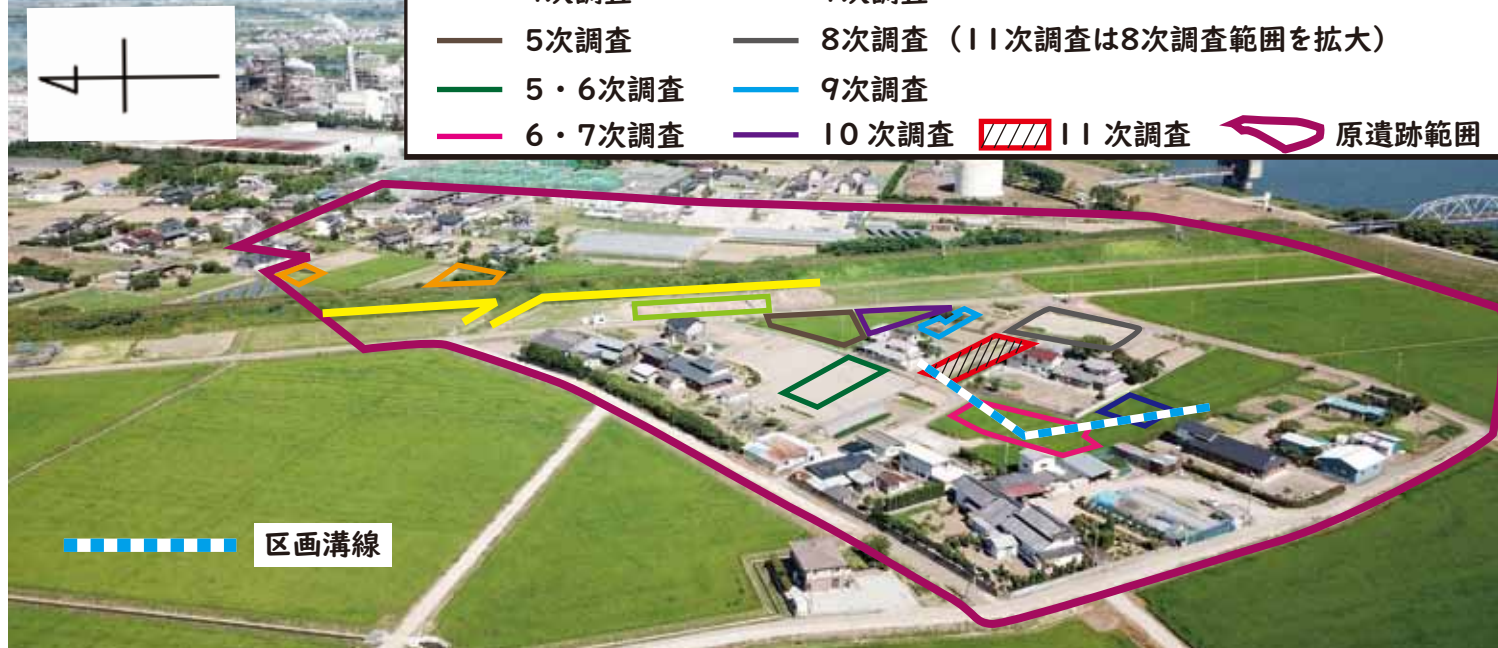
ふるさと展示室
キャラクター
あぶ
阿武クマさん

2026年 9月 25日発行
岩沼市ふるさと展示室
(市民図書館2階)
TEL: 0223-25-2302

令和8年度原遺跡発掘調査を開始しました。同遺跡は平成28年(2016年)から以下の通り継続調査を行っています。

原遺跡の遺跡範囲及び
これまでの調査範囲

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| — 1次調査 (平成28年) | *平成28年度(2016年)から毎年度調査を実施 |
| — 2・3次調査 (3次調査は2次調査範囲を拡大) | |
| — 4次調査 | — 7次調査 |
| — 5次調査 | — 8次調査 (11次調査は8次調査範囲を拡大) |
| — 5・6次調査 | — 9次調査 |
| — 6・7次調査 | — 10次調査 |
- 11次調査
 原遺跡範囲



原遺跡は、阿武隈川の北岸に形成された標高5m前後の自然堤防上にあり、JR常磐線の線路の東西に広がっている遺跡です。遺跡の付近一帯は、平安時代の辞書『倭名類聚抄』に記載された「名取郡玉前郷」に相当するといわれています。

岩沼市は、今から約1300年前の地方区分や主要な道路の1つである「東山道」に属し、地方と都を結ぶ道中には馬の乗り換えや休息のための施設「駅家」が置かれました。また、人や物資の往来を監視する施設の「関所(割)」も駅家の近くに置かれたと考えられます。平安時代の法令集『延喜式』に記載された「玉前駅家」と多賀城跡から出土した木簡(文字や絵を記録した木の板)に記載の「玉前割」が示す場所もこの遺跡周辺であると推定されています。



写真① 区画溝(赤線部)

これまでの調査で、約2m幅を持つ広く直角に曲がる大きな区画溝(写真①)や、文字を書く際に使用する円面硯(写真②)のほか、倉庫や仕事に関連したと思われる掘立柱建物跡や、一辺が約10m近くにもなる大型の竪穴住居跡(写真③)などが発見されました。古代の文字資料や出土した遺物や建物跡などの発見から原遺跡は単なる集落の跡ではなく、今から約1300年前の古代の役所と関連の深い施設の推定地とされる、重要な遺跡です。



写真② 円面硯

写真③ 大型竪穴住居跡



ポイント!



- ・これまでの調査で発見された区画溝(写真①)の一部が第11次調査の調査範囲で発見されるかどうか。
- ・墨で文字が書かれた土器(墨書土器)など、原遺跡を古代の役所と関連づける遺構や遺物出土するか。
- ・建物の跡など、新たな遺構が発見された場合、既に見つかっている遺構の配置とどのような関連があるか。